

戀心屋甲斐長

江戸吉原の恋文代筆屋





長里

屋想懸

吉原

子ヤキ谷





どうぞ
玉菊を

「決して
お見捨て
くだんすな」

たけな











オレは女郎が
客へ送る
懸想文の
代筆をしている

文売りですよ



玉菊は
売れつ妓だから
なア

今日も
何通か渡す
つもりでしてね



真実
なんて

つまんない
でしょう



ねえ
ほら





なあ

玉菊



いいねエ

ここでは
金さえあれば
極楽だ



あ、
今日はおもしろ
えもん見たぜ



もろさん
けいさくさん
だ

ぼろくの
武士でナ

手紙にきりしめ
お前に来たな



里長さん
また御見物
かエ



身を持ち崩した
侍なぞ

玉菊

バカもあそこまで
いくといつそ
すかくしいが

何で
書かせた?



アレ

開てもふりて



ハナから公える
わけもねエのに

いい月だよ

満月には
まだ早い

花魁は
夜の支配者
だナ

次の紋日さ

あの
月のように





お前には月が
似合うよ

満ちたり
欠けたり

その美しい顔の裏側は
決して見ることが
できねえんだ

わっちが？

裏も見せず





ほうら

見ていんす



傾城に真があつて
運の尽きか！



あの侍は勝手に
わつちに入れあげて
心中でもしそうな
勢いだつたから
愛想を
つかしんした

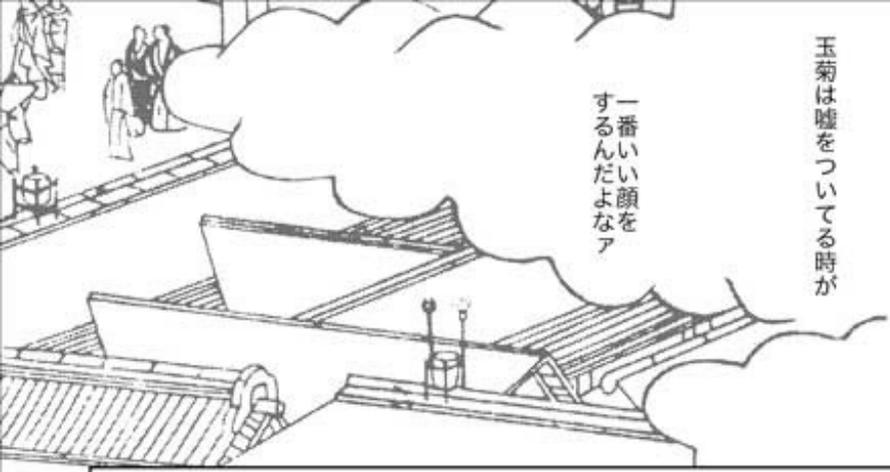


月は嘘を
つきんせん

ほんさんすよ

玉菊は唾をついてる時が

一番いい顔を
するんだよなア



数日後

吉原

羅生門河原







ついでには
独りになる



この文だけは
真と思つて



そんなことを
玉菊は
耐えられますかね

すつかり
いいよ



わたしは
もうそんな
こと
いいのだ



そんなものは
わたしには
通用しない



よしねえな
とち狂って
たら夢も
見れねえぜ



手紙だけが
真実なんが
ありえない



ん



わからん
からナ
邪魔を
した!



玉菊も
すっかり
ほだされて



はー
なるほど
この調子だから

自分が一体

何者なのか

わからなく
なつちまうんだナ

玉菊は
上客だ

まさか
心中でも
する気じや
あるまいな

なんて感心
してる場合じゃないっ

心中も
足抜けも
さされちや
困るぜ!







さあもう
御仕舞だぜ



御仕舞
だと？

では何故
この手紙を…



何も
読み取れねえ
のだな

貴様は
玉菊の
いじらしさも

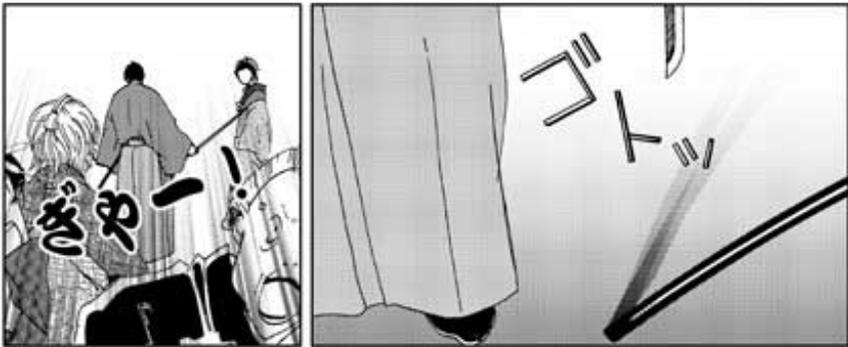
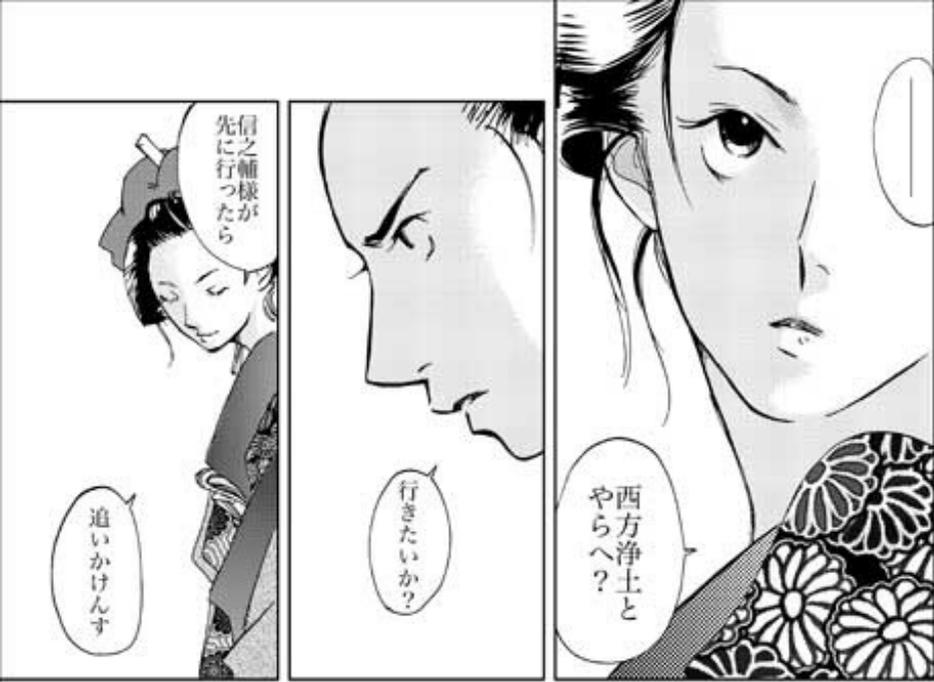
境遇も

吉原の恋には
流儀があるのだ

それを
疑って
いては
何の
真実も
見れ
やしない
ぜ









止めて

誰か この男を



わっちは

もう何も
できんせん



本心が

どうやっても
口から
出ないんだ…



誰か



芝居は幕だぜは

止めたく





私たちは何故



夢を



見続けられなかったんだろう





誠こもりし
いと曲輪



丸い世界や粋の世に
嘘とは野暮の偽りと...

懸想屋里長～江戸吉原の恋文代筆屋～3

<http://p.booklog.jp/book/26300>

著者：亀谷キヤ子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kiyako/profile>

著者ホームページ：<http://uwb3.com/>

発行所：ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/26300>

ブクログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/26300>